

阪 南 市

阪南市新総合計画

～多様な主体でひとつの将来像をめざすために～

はじめに

「自分たちのまちを、自分たちでつくる」——少子高齢化や人口減少社会の到来など、成熟社会における課題の顕在化や、地方分権・地域主権が推進されるなか、現在、地方公共団体だけではなく、住民が自らの判断と責任において地域の諸課題の解決に取り組むことが求められています。

本市では、このような社会情勢の変化を踏まえ、より一層の「選択と集中」を図りつつ、市民、各種団体、事業者など「さまざまな地域の主体との協働によるまちづくり」を見据えた新しい総合計画の策定を進めています。

新総合計画の3つの策定方針

本市では、平成21年7月に「阪南市自治基本条例」を施行し、市民の想いをまちづくりに反映できる仕組みを充実するとともに、これまで以上に市民参画を図り、協働によるまちづくりを進めています。このため、新総合計画の策定方針として、「市民に開かれた計画づくり」「市民に分かりやすい計画づくり」「行政評価に対応する計画づくり」の3つを基本に取り組んでいます。

① 市民に開かれた計画づくり

市民と行政が自分たちでつくった総合計画という認識を持ち、また、まちづくりの目標を共有します。

② 市民に分かりやすい計画づくり

成果指標等の目標を設定するとともに、市民に分かりやすい表現で、誰が見ても理解できるように策定します。

③ 行政評価に対応する計画づくり

主要施策を総花的に記述するのではなく、施策別に数値目標などを設定し、事業の進捗状況を管理することにより、各事業の実施計画等に反映し、施策及び事業の選択と集中を図ります。

市民参画の総合計画を

新総合計画を市民に開かれたものとして策定するため、公募市民など21名による市民会議「阪南みらい会議」を設置し、昨年2月から8月にかけて全15回の会議が開催されました。この会議は、これまでのように市が主体となって会議を進めるのではなく、開催の日程から課題の決定、司会進行までの全てが市民の手作りで運営され、まちづくりの担い手として「これからの10年間のまちづくり」について話し合いが行われました。その結果、「将来の都市像」に対する熱い想いをひとつのキャッチフレーズに取りまとめ、それを実現するための4つのキーワードとともに、提言をいただきました。



阪南市みらい会議 会議風景

《阪南みらい会議 提言》

ともにさかそう笑顔とお互いさまのまち 阪南

- 安全安心のまち
- 助け合いのまち
- 自然、歴史、産業を活かしたまち
- 官民協働のまち

さらに、将来の市民参画への種まきをするため、10年後のまちづくりを担う世代となる中学生の想いを新総合計画に反映できるよう、積極的にアプローチを行いました。

市教育委員会の協力を得て、全市立中学校の1・2年生を対象にアンケートを実施するとともに、昨年6月から7月にかけて生徒会役員による「中学生会議」を開催しました。会議では「将来、阪南市がどのようなまちになって欲しいか」について、学校の枠を越えて話し合い、市の将来像をキャッチコピーという形で取りまとめていただきました。「おもいやり」と一言で略されるキャッチコピーには、「ひとりひとりがまちをリードし、大阪府をリードしていくまちへ」という想いが込められています。

《中学生会議 提言》

- お もいやりとふれあいがあふれる
- も っとにぎやかで
- い つまでも安心して暮らせる
- や まもうみも美しい
- り ードしていくまち 阪南



中学生会議 提言式

市制施行20周年を迎えて

平成23年度は、本市にとって市制施行20周年を迎える節目の年となります。今月から12月にかけて、各種記念事業を実施する予定であり、本年10月1日には、市制施行20周年記念と新総合計画策定の周知を兼ねた、まちづくりのシンポジウムを予定しています。多彩なプログラムを通じて、「阪南みらい会議」や「中学生会議」から頂いた2つの提言の想いを市民ひとりひとりが共有し、一体となって育てていけるよう、今後のまちづくりに一層の興味を持ってもらえる内容にしたいと考えています。今後も、市民や各種団体、事業者の方々とともに、活力と魅力のあるまちづくりに、創意工夫しながら取り組んでまいります。



阪南市市制施行20周年イメージキャラクター
（名称募集中）